

平成30年度 第1回総社公民館運営推進委員会  
開催結果概要

全ての協議事項について、承認されました。

意見及び質疑応答の概要は以下のとおりです。

(E 委員)

市の公民館運営審議会でも去年・一昨年と2か年に渡って「こどもに親しまれる公民館づくり」というのがテーマであった。総社公民館も「すくすく教室」や「サマーチャレンジ」などを企画しており、とても良いと思う。少子高齢化という実情に照らした地域課題・ニーズに合わせた企画をしていくという点は大切。

また、子どもの頃から親しまれる公民館でありたい。また、学んだことを地域に活かしていくことも重要。市全体の目標と総社公民館の目標と非常に連動するところがあると思う。

(J 委員)

学んだことを活かすということは非常に大切。学校でもキャリア教育などと言われてもいるが、地域への愛着も含めて、自分がここで育ち学んだことを次の世代に受け継いでいく。そういう人材づくりも取り組んでいかなければならない。地域と同じ方向を向かって、できることは連携しあっていくことが効果的であると思う。

(B 委員)

最近の子どもはなかなか外で遊ばない。家の中でゲームやパソコンをすることが多い。そのような中で、全て公民館でやる必要はないと思うが、地域人材を活用して、何か身に付けて帰れるような事業をして欲しい。例えば、料理教室なども対外的に発信していける教室などを企画してはどうか。

また、サマーチャレンジ事業（青少年体験・チャレンジ活動事業）などは募集人数が少ないのではないか。今後少し考えて欲しい。

公民館に図書室も併設されているので、子ども達の利用促進を図って欲しい。

(B 委員)

総社清里公民館クラブ（青少年体験・チャレンジ活動事業）のように複数館（地区）で事業を行うことはこれまでもあったのか。

(事務局)

これまでも同様の企画を実施している。特に清里地区（公民館）との合同事業は、中学で同じ第六中学校に進学するというので、総社・勝山・清里小の児童が一緒になって小学校年代から事業を行い、交流を深めることを目的の一つとして実施している。

（B 委員）

地元の工場見学なども地元の子ども向けにしてもらえたらいい。なかなか難しい実情もあると思うが、公民館の中ばかりでなく、外に出て行く事業もいいと思う。

（J 委員）

地元のある企業は、学校に出向いて体験講座をしてくれたり、工場見学を受け入れてくれている事例もある。

（A 委員）

ケガの問題など、企業はどうしても考えざるを得ないことは理解してあげないといけない部分もある。

（A 委員）

昨年、日本間酒造で行った「里山学校（赤城山ろく里山学校）」の取り組みは非常に評判が良い。料理体験など、家ではなかなか料理をしない子どももいて、そういった日頃できないことを体験させることは大変良いと思う。

（事務局）

今年も9月下旬に同様の事業を開催予定。日本間酒造の活用も野菜販売などで動き始めた。自治会連合会を中心に今後も利活用を考えていかなければならないことだが、公民館としても地域の宝の一つとして、利活用を考えていきたい。

（A 委員）

日本間酒造は野菜を売ることだけが目的ではなく、みんなが足を運んで、集ってもらうことが大きな目的である。

（E 委員）

コミュニティデザインは、市全域でまとめたということで素晴らしい取り組みだ。いろいろな場面で活用して欲しい。総社の歴史理解、地域力の向上にも役立つと思う。

（事務局）

コミュニティデザインの資料は、これまでも視察対応などで活用しているが、アドバイスをいただいたように今後は館内への掲出などを行っていきたい。また、一旦、完成として取りまとめたが、今後も地域の皆さんの意見を頂戴しながら、資料内容の更新をしていきたい。

(C 委員)

減免の基準や公民館利用に関して苦情などはないか。

(事務局)

活動歴などを見た上で減免団体としている。減免団体、有料団体と共に登録が増えている状況だが、それぞれの活動内容を精査した上で登録（許可）としている。

(C 委員)

利用申請の際に、利用の可否判断について難しい場合は、上部機関に判断を仰ぐことはあるか。

(事務局)

教育委員会生涯学習課に判断を仰いだり、他公民館の状況などをお聞きし参考にすることもあ

(B 委員)

登録の時点では総社町の方が代表者であっても、役員改選などで変わってしまって、結果、他の地区の人で多く構成され使うケースがある。地区の公民館であることを忘れないで欲しい。

(事務局)

予約や利用方法などについて、引き続き検討してまいりたい。